

(五) 農家經濟調査原簿の様式とその取扱

この原簿は出張所に備えて置き、作報出張所擔當職員が聴取つて記入する帳簿である。年度始に農家の棚卸計算を行い 4 月 1 日現在の財産を實査して記入し、その後は四半期毎に實査して記入する。帳簿構成の内容は次の通りである。

1. 世 表 帯 員
イ、常住世帯員

男女區別	氏 名	年 齡 (數え年)	經營主 続柄	主として 従事する 職業	昨年 の農 業 見 積 日 數	1ヶ 月の 農 業 見 積 日 數	自營 兼業 の 種 類	業 務 の 見 積 日 數	農 業 の 見 積 日 數	その 他 の 賃 務		備 考
										種類	見積日數	
家 族	男											
	女											
年 雇	男											
	女											

ロ、他 出 家 族

男女區別	氏 名	年 齡 (數え年)	經營主 続柄	出稼の場合		遊學中の場合			その他の場合 (未歸還者、療養 者等を記入する)
				縣内、工場、會社、 縣外の別官公署名	昨年の家 えの送金額	學校名	所在地	任送り 費	

2. 生 産 物 表
イ、農作物類

生産物名	田畑の 別	作付面積	單位當 收量 (反當)	昭和 年		生産數量	處 分 内 課				
				四 半 期 別			販 賣				
				期 別	期 間		供 出	自 由 (物交を含む)	家計用	兼業用	農業用
		反: 畝: 歩		I	(4月-6月)						
				II	(7月-9月)						
				III	(10月-12月)						
				IV	(1月-3月)						
					計						
				I	(4月-6月)						

ロ、作物以外のもの

生産物名	昭和 年											
	積立数量 又は 飼養数量	単位 当り 収量	四半期別		生産量	處分内課					残高	
			期別	期間		販 出	自 由 供 出 (物交を含む)	家 計 用	兼 業 用	農 業 用		
												期
			I	(4月—6月)								
			II	(7月—9月)								
			III	(10月—12月)								
			IV	(1月—3月)								
				計								

- (註) 1. この表は調査農家の生産する農作物その他の生産物につきその期間内の生産数量とその間の處分内容を四半期毎に農家の覚帳を實査して記入する。
2. 處分内課の販賣及び家計仕向の分については、四半期毎に覚帳から實査して出たものとその間の日計簿記入の處分したものを照合して、くいちがいのないように処理すること。とくに米麥については日計簿と米麥受拂帳とを照合して毎月補正し、四半期末に合致させること。
3. 連続して生産される牛乳・鶏卵・蔬菜類については別に農家に渡してある覚帳の生産及び收穫控の月計と日計簿を照合して、四半期毎に集計し、この表に轉記すること。

ハ、未収入及び未拂金

期 別	未 収 入 金		未 拂 金	
	品 名	金 額	品 名	金 額
年 度 始				
四 半 期 別 實 査	6 月 末			
	9 月 末			
	12 月 末			
	3 月 末			

- (註) この表は農家の覚帳中の、未収、未拂帳から年度始と四半期實査の際にこゝへ未精算のものを轉記する。
(この表は原簿の最終頁に組み込まれる。)

3. 作 付 臺 帳

田畑別	圃場名及地番	面 積	作 付 作 物		作 付 期 間															
			作物名	作付面積	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
					反・畝歩	反・畝歩														

- (註) 1. 毎月の圃場別利用状況を明確にする爲作付反別・作付期間を記入する。
2. 月別に作物の耕作地占有面積を明確にする。播種又は收穫の日附けを作業の月に記入する。

4. 財 産 臺 帳

(1) 土 地 (1)

地目 の別名	圃場 の別名	土地利 用形態	貸賃価格及び 小作料土地権利			年 度 始		年 内 異 動						年 度 末					
			貸賃 価格	小 作 料	土 地 権 利	面積	価格	開墾土地 改良による 増価額	耕心土流 失等による 減価額	賣却による減少		購入による増加		面積	價額				
										面積	價額	面積	價額						

- (註) 1. 本表は農家の自作地・小作地・貸付地の全部の土地につき一筆毎に記入すること。(記入順序は自作地・小作地・貸付地の順とすること)
2. 地目別は田・畑・宅地・池沼・山林・牧場・原野等の別を記入すること。
3. 圃場名及び地番は「宮下132番地」のごとく記入すること。
4. 土地利用型態は「~~一毛作田(濕田)~~・~~二毛作田(乾田)~~・普通畑・燒畑(又は切替畑)・桑園・蔬菜畑・採草地・放牧地等なるべく詳細に記入すること。
5. 貸賃価格は役場の土地臺帳の通りを記入し、小作料又は地代は小作地及び貸付地についての1ヶ年間の貸賃借料、自作地については、参考のため類地小作料又は類地地代を記入し、土地権利にはその土地に小作権・耕作権(作離料)・入會權等についての価格のある場合、その價額を記入すること。
6. 年度始の面積は實際の面積を記入し、その價額は貸賃価格に自作農創設特別措置法に規定する倍率を乗じた統制價額を記入すること。年度末價額はその圃場を年内の異動のないかぎり年度始價額と一致せしめ年度末の評價は行わないこと。
7. 年内異動のうち、土地改良による増価額は客土等の土地に定着した永久的な土地改良につき、その費用等による評價額を計上し、耕心土流失等に依る減価額はその不良化した後の類地の價額とその價額の差額等より見積つて記入すること。
8. 賣却による減少の場合はその賣却した圃場の欄に記入するが、購入による増加の場合は小作地を除いては別に欄を設けて年度始以外の項目を記入することとし、價額は實際の購入價額を記入すること。但し賣却價額が年度始價額により計算した賣却部分の價額より高い場合は、その差額は評價益とし、逆に低い場合はその差額を評價損として取扱う。
9. 年度内に地目變換が行われた場合、又は土地賣買が行われても賣却地を小作地としたり、小作地を購入して自作地としたり、或は貸付地を引上げて自作地としたような場合はその圃場欄とは別に欄を設けて記入するか重複計算にならないよう注意すること。

(1) 土地 總括 (2)

		昭和 年度始						昭和 年度末																	
		自作地			小作地			計			自作地			小作地			計								
		面積	貸賃 價格	價額	面積	小作 料	價額	面積	價額	面積	貸賃 價格	價額	面積	小作 料	價額	面積	價額								
		反	円	円	反	円	円	反	円	反	円	円	反	円	円	反	円								
經營地	田	一毛作			二毛作			普通畑			果樹園			桑園			茶園			その他園			小計		
	宅地	林野其他			計			土地權利			小作權			地益權			入會權			計					
	貸付地	田			畑			其他			計			合計											

(2) 建 物

種類	構造	棟數	延坪數	新築年度	貸賃價格	使用割合		耐用年數		年度始		年 内 異 動				年度末現在價	備考
						農業用	家計用	經過	將來	新調時價	現在價	減價 償却額	新築・増 築による 増加額	災害による 減少額	賣却による 減少額		
所有					円	%	%	年	年	円	円	円	円	円	円		
借入																	

- (註) 1. 構造には草屋根平屋、瓦葺二階建の如く具体的に記入する。坪数は建物の構造により計算して延坪で計算する。
 2. 貸賃價格は家屋臺帳により記入する。農業使用割合及家計使用割合は其地方の農作業や農舎としての利用状態を勘案して利用坪數及日數で推定して定める。
 3. 評價標準の決定方法並耐用年數は本省で指示する標準により決定する。
 4. 減價償却法は定額法による、残存價格 (廢棄價格) は10%とする。

(3) 農 具

種類	型式	購入年度	購入價格	使用割合		耐用年數		年度始		年 内 異 動				年度末現在價
				農業用	兼業用	經過	將來	新調時價	現在價	減價 償却額	賣却による 減少額	購入による 増加額	摘要	
		年	円	%	%	年	年	円	円	円	円	円	円	円

- (註) 1. この農具には償却を要する。農具のみを記入する償却を要せざる農具は新購入をもつて取替法で計算し財産臺帳に記載しない。農具の残存價格は認めない。

(4) 植 物

植物名	栽植年度	耐用年數		年 度 始		年 内 異 動						年 度 末			
		經過	將來	反別	栽植 本數	新栽植 時價	現在價	減價 償却額	成長による 増價額	災害による 減價額	抜根による 減少額	新植による 増加額	反別	現在價	
		年	年	反	本	反	円	円	円	円	円	円	円	円	円

- (註) 1. この表には永年性の植物を記入し兩年度に亘る作物は記入しない。
 2. 麥類等の費用價を算入することは未實現利益を算入することになり、この調査に不適當と考へられるので計上しない。庭園樹や空地、畦畔にある1.2本の果樹類は計上しない。

(5) 動 物

動物名	頭羽數	購入 生産 年月	購入 年齢	購入 價額	耐用年數		年度始時價	年 内 異 動						摘要	年度末價額
					經過	將來		減價 償却額	成長 による 増價額	生産による 増加額	死亡による 減價額	賣却による 減少額	購入による 増加額		
		年	年	円	年	年	円	円	円	円	円	円	円	円	円

- (註) 1. 農業經營の対象となる全部の動物には一頭毎に記入することとし、棚卸計算に於ける評價額は時價による。
 2. 購入による價格は購入費、死亡による減價額は現在價による。残存價格は廢畜處分價格による。

(6) 現 物

1. 未處分農産物

品 名	年 度 始		摘 要	年 度 末	
	數量	評價額		數量	評價額
		円			円

- (註) 1. この表の米麥等は米麥受拂帳の年度始及び年度末残高を記入する。
 2. 米麥以外の農産物は年度始及年度末の棚卸計算で實際の在庫量で記入する。評價額は時價による。
 3. 農産物以外のものは区分する。

2. 購入現物

品 名	年 度 始		摘 要	年 度 末	
	數量	價 額		數量	價 額
		円			円

- (註) 1. 購入現物の受拂をしないから年度始及年度末の棚卸で確實に實際の在庫品を調べて記入する。評價額は取得價格による。
 2. 農業用以外のものは区分する。

(9) 現金及準現金

金融機関別	摘要	年度始金額	四半期末賞査額				年度末金額	備考
			6月末	9月末	12月末	3月末		
手持現金								
預貯金	農業協同組合貯金							
	郵便貯金							
	銀行預金							
	金銭信託預金							
	計							
貸付金	貸付金							
	計							
講及保険掛金	営業無盡掛金							
	親母子講掛金							
	生命保険掛金							
	簡易保険・郵便年金掛金							
	計							
有価証券	協同組合出資金							
	農地証券							
	國債々券額							
	株式公社債券							
	其他有価証券							
計								
合計								

- (註) 1. 現金及準現金は年度始の賞査を確實に計算して記入する。
 2. 貯金等を名義別に内記し得ることとする。
 3. 金融機関別の内訳を正確に区分すること。
 4. 四半期毎に賞査して記入し、四半期末に補正する。
 5. 負債は金融機関別に借入額及借入条件を記入し、四半期毎に賞査して正確を期する。

(8) 負債

金融機関別	年度始	四半期末賞査額				年度末	起債の 目的 年月日	借入条件				
		6月末	9月末	12月末	3月末			有擔保 無擔保 の別	擔保 物件 の別	連帶 又は 信用 借入 の別	利率	償還 方法
市町村												
負債整理組合												
	農業協同組合											
借入金	勸業銀行・北海道拓殖銀行											
	普通銀行											
	営業無盡會社											
	親母子講											
	簡易保險及生命保險會社											
	個人											
	特約會社及取引先											
	公益質屋その他											
	計											
	合計											

(六) 農家經濟調査覺帳の様式と記入の仕方

覺帳は生産物の收穫高とその拂出用途がわかるように農家が自由に記入して置くために設けた帳簿で、經濟調査の補助簿である。出張所の調査職員はこの記入事項を6月末、9月末、12月末、3月末のそれぞれ過去3ヶ月分を取りまとめて原簿に轉記し、四半期毎に整理するもので、農家の自由な記入欄を設け提出させないものである。

(1) 米麥受拂帳

1. 生産物のうち米麥のみをこの受拂帳に記入する。先ず年度始の繰越高を記入し、その後はその日その日の受入と拂出を記入するが、米麥の家計消費は便宜上10日分宛まとめて日計簿の家計仕向に轉記することとするが、この場合、減少量の内訳を仕向けに記入する如くして残高と一致させる。
2. 摘要欄には受入や拂出の事情を記入する。受入の場合は、生産せられたものか、購入又は勞賃として受入れしたものかの別、收穫したものは圃場名・品種・收穫面積等の概況を記入し、拂出の場合は供出・自由販賣・家計消費・進物又は勞賃等と仕向の内容を記入する。
3. 數量の單位を統一し、受拂を正確にする。
4. 入金状況の欄は供出や自由販賣の場合の代金の入金月日・金額を記入し、入金方法には協同組合振替又は現金・小切手・内金等の區別をする。未収入の残金がある場合はその額を記入し、精算の終了した時に済と記入する。販賣しないものは記入しない。

(2) 生産及び收穫控帳(米麥以外)

米麥以外の生産物のうちで牛乳・鶏卵・蔬菜等の如く毎日生産されるものは記入場所を廣くとして生産物毎に口座をつくつて生産量と販賣量、家計消費や進物に使つた數量を記入する。家計消費はなるべく10日毎にまとめて日計簿の生産現物、家計仕向に轉記するように指導する。この場合現物の残高を調べて仕向額と引合せ、仕向額を正確にする。

(3) 貸借整理帳

1. 未収入、未拂金の覺帳の方には供出や販賣で後から代金を貰ふものと掛買のものを記入して置き、精算の都度整理する。3月末に未決済で残つてゐるものは出張所に備付けの調査原簿に轉記する。
2. 一時貸借覺帳には長期の負債でない一時的貸借を記入する。

ロ、他 出 家 族

男女區別	氏 名	年 齢 (数え年)	親 主 の 欄	出 稼 の 場 合			遊 學 等 の 場 合			その 他 の 場 合 (未 歸 還 者 療 養 者 等 を 記 入 す る)
				縣 内、工 場、會 社、 縣 外 の 別 官 公 署 名	昨 年 の 家 送 金 額	送 金 額	學 校 名	所 在 地	仕 送 り 費	

世帯表記入のしかた

1. 常住世帯員としては平生同居して家計を共にする家族員について記入すること。(季節的出稼のように一期間に相当長期他出することがあつても、生活の本據を移していないものは、常住世帯員とし、その旨備考欄に記入すること)
2. 同居人には、家族員でなくても平生の生活を共にする農業年雇、家事使用人及び附付の同居人(單に問借だけの者を除く)等について記入すること。
3. 他出家族員には、平生家計を共にせず他に別居していても、未だ経済的に獨立してない家族、たとえば遊學中の子女とか、家計補充のための工場等への出稼人等について記入すること。
別に獨立の家計を営んでいる家族員は、たとえ臨時的に経済的な交渉があつても、他出家族としない)
4. 主として従事する職業には、自家の農業に従事する者は「自家農業」とし、主として自家の農業以外の事業を自営する者はその事業名(たとえば「炭焼業」「漁業」「雜貨商」「運搬業」等)と、他に賃労働者又は公務員、團體、會社等の職員として出ている者は、その職種・職名を具體的に記入すること(勤務先等については、備考欄に附記しておくこと)この場合、自家の農業の範圍は、耕種・養蠶・養畜のみでなく、その延長として營む自家の生産物を原料とする加工(たとえば、薬加工)をも含めるものとする。したがつて、主として他から農産物や薬等を原料として購入して、自家の農業と獨立して加工業を営む者は、自家の農業以外の別個の事業となる。
5. 昨年1ケ年間に自家の農業に従事する見積延日数は、主として自家の農業に従事する者は、勿論、主として他の職業に従事する者でも、農業期や休日等に自家の農業に従事する場合、又は家事に従事する女子等で、補助的に臨時的に自家の農業を手傳うような場合、大體1ケ年間のうち普通の1日の労働時間にして何日分位、自家の農業に従事するかを見積つてその日数を記入すること。但し幼年者・高齢者・病弱者などで、殆んど勞力を要しない程度の軽い仕事を手傳う程度のものは記入を要しない。
6. 自營兼業に従事する者にして兼業として従事する兼業の種類及び従事見積日数を記入する。
7. 農業の見積賃稼日数には他家の農業に雇われて賃労働に働いた日数を記入する。
8. 其他の賃労働には雇われた賃労働の種類とその見積日数を記入する。
9. 官公吏・會社・團體の職員で俸給を貰つた人は其團體又は會社名を記入する。
10. 非従業者の區別には在學中の者はその校名學年等を記入し、病弱老人等の事情のあるものはその旨を記載すること。
11. 年度内に婚姻・出産・死亡・他出等の異動ある場合はその月日とともにその事情を記載すること。
12. 他出家族の場合に出稼の場合は縣内・縣外の別、工場・會社や官公署の名稱を記入し昨年度へ送金して來た金額を記入する。
13. 遊學中の場合は、學校名・所在地・昨年1ケ年の仕送り學費を金額で記入する。
14. その他未歸還者や病氣療養の爲に永く出ている人は其旨を記入する。

1. 世 帯 員 の 構 成

男女區別	年 齢	常 住 世 帯 員										他 出 家 族								
		常 住 家 族 員										使 用 人		仕 送 り 金 額						
		主として自家の農業に従事する者					主として自家の農業以外の職業に従事する者					農 業 年 雇	家 事 使 用 人	そ の 他	學 費 を 仕 送 り す る 者	生 活 費 を 補 充 す る 者	賃 勞 働 者	そ の 他		
		自家の農業のみに従事する者	兼業として自家の農業に従事する者	農業以外の事業を自営する者	賃労働者	公務員等	非従事者	炭 焼	運 搬	漁 業	そ の 他									
男	0-7																			
	8-16																			
	17-19																			
	20-60																			
	61-70																			
	71以上																			
女	0-7																			
	8-16																			
	17-19																			
	20-60																			
	61-70																			
	71以上																			
	計																			

2. 土 地

耕作地	種 別	年 度 始										
		自 作 地			小 作 地			計				
		面 積	賃 貸 價 格	價 額	面 積	小 作 料	價 額	面 積	價 額			
耕 地	田											
	一 毛 作											
	普 通 畑											
	果 樹 園											
	桑 園											
	茶 園											
	そ の 他 の 園											
	小 計											
其 他	宅 地											
	林 野 其 他											
	計											
土地權利	小 作 權											
	地 益 權											
	入 會 權											
	計											
貸 付 地	田											
	其 他											
	計											
	合 計											

(註) 價額は法定地價で記入する。

3. 建物 (土地改良も含む)

名 稱	延坪數	賃貸價格	耐用年數		現在價	農業使 用割合	家計使 用割合	その他	備 考 (建物構造・土地改良内容)
			經過	將來					
住 家									
納 屋									
倉 庫									
畜 舎									
肥 堆 舎									
其 他									
計									

(註) 1. 時價評價で記入する。評價法は本省で別に指示する方法による。
2. 年度末には評價替しない。

4. 農 具 (大農具のみ)

名 稱	臺數	耐用年數		現在價	農業使 用割合	兼業使 用割合	備 考
		經過	將來				
計							

(註) 建物に準ずる。

5. 植 物 (永年性木本植物のみ)

植 物 名	反 別	耐用年數		育 成 現在價	備 考
		經過	將來		
果 樹					
桑 樹	根 刈				
	中 高 刈				
	立 通				
茶 樹					
杞 柳					
三 椏					
計					

6. 動 物

動 物 名	頭 羽 數	時 價	備 考 (家畜別内譯等)
牛	役 肉 牛		
	繁 殖 牝 牛		
	乳 牛		
	種 牡 牛		
馬	役 馬		
	繁 殖 牝 馬		
豚	種 牡 豚		
	其 他		
鶏			
計			

(註) 時價で記入する。

7. 現 物

(1) 未處分農産物及び經營用自給現物 (中間生産物)

未 處 分 農 産 物				經 營 用 自 給 現 物 (中間生産物)			
品 名	數 量	價 額	備 考	品 名	數 量	價 額	備 考
粳 米							
糯 米							
大 麥							
稈 麥							
小 麥							

(註) 時價で記入する。

(2) 購 入 現 物

農 業 用				自 營 兼 業 用			
品 名	數 量	價 額	備 考	品 名	數 量	價 額	備 考
硫 安							
石 灰 窒 素							
過 磷 酸 石 灰							

(註) 購入價格、取得價格で評價する。

8. 現金・準現金

金融機関別		年度始	備考 (1件宛内訳を記入する)
手	持 現 金		
預 金 貯 金	農 業 協 同 組 合		
	郵 便 貯 金		
	銀 行 預 金		
	金 銭 信 託 預 金		
計			
貸	付 金		
講 及 保 險 掛 金	營 業 無 盡		
	親 母 子 講		
	生 命 保 險		
	簡 易 保 險 ・ 郵 便 年 金		
計			
有 價 證 券	協 同 組 合 出 資		
	農 地 證 券		
	國 債 ・ 債 券		
	株 式 公 社 債 券		
計			
合 計			

9. 負 債 (1件宛調べて記入する)

金融機関別	起 債 の		年度始	借 入 條 件									
	目的・年月			有 擔 保 の も の				無 擔 保 の も の					
	目 的	年 月		擔 保 物 件	借 入 額	年 利 率	償 還 方 法	連 帯 又 は 信 用	借 入 額	年 利 率	償 還 方 法		
市 町 村			円										
負 債 整 理 組 合													
農 業 協 同 組 合	一 般 資 金												
	農 業 手 形												
	勸 業 銀 行												
	北 海 道 拓 殖 銀 行												
	普 通 銀 行												
	營 業 無 盡 會 社												
	親 母 子 講												
	簡 易 保 險 ・ 生 命 保 險												
個 人													
	特 約 會 社 取 引 先												
	公 益 質 屋 ・ 質 屋 そ の 他												

未 収 入 金	件 名	金 額
		円

未 拂 金	件 名	金 額
		円

(八) 四半期別動態調査表

この調査表は四半期毎に農家の農産物の収穫高と其処分状況を調査し、月別に計算して記入し、更に農家の資金の動きを知るために、引出預貯金の用途と、借入資金の金融機関別内訳と其用途を調査するものであるから、作報出張所の擔當職員が日計簿の記入状況を検査して書抜き、農家別に聴取調査で補充して財産裏帳の記入事項を参照しながら作成して本所を通じ本省へ提出するもので、様式と記入の仕方は次の如くである。

四 半 期 別 動 態 調 査 表
(1) 農産物収穫高及その処分 第 期 () 分

種 類	作付面積 及 飼養数量	單位 當 收量	現物 前期 繰越 高	月 別 收 穫 量				生 産 物 處 分 内 訳					残 高		
				月	月	月	計	販 供 出	賣 自 由 (含物交)	家 計	兼 業	農 業			
水 稻	粳 米														
	秈 米														
陸	稻														
麥	田 畑														
	田 畑														
	田 畑														
豆 類	大 豆														
	小 豆														
雜 穀															
甘 藷	田 畑														
馬 鈴 薯	田 畑														
蔬 菜															
果 樹															
蠶	上 繭														
	玉 屑 繭														
畜															
工 品															

- この表は主産物の収穫物と其処分を記入する。
- 作付面積は四半期別に所屬する3ヶ月間に収穫のあつた作物に付記入し、収穫のない月は前期繰越高と処分数量を記入し、作付面積は記入しない。
- 兩期に亘る作物は後期に廻し其旨附記すること。

(2) 資金の動き

(イ) 預貯金の動き

第 期 (月) 分

主なる預入金				主なる引出金			
金融機関名	預入額	月日	預入金の収入源	金融機関名	引出額	月日	引出金の使途
	円				円		
計				計			

(ロ) 借入金の動き

主なる借入金						借入金の返済		
金融機関名	借入金額	月日	利率	擔保物件	使途	金融機関名	返済額	月日
	円						円	
計						計		

- (註) 1. 預貯金の表は四半期別に日常の生活資金以外に貯金の引出を行つた時、月掛貯金以外の預入金があつた時に記入する。
 2. 借入金の表は借入金をした時借入額と其条件を記入し、借入金の返済の場合は其額を記入する。
 3. 預入金の収入源は米代、麥供出金、犢牛販賣代金の如く記入し、引出金及借入金の使途は役牛購入資金、土地購入資金の如く記入する。

(3) 預貯金、負債調査表 第 期 (月) 末

(イ) 現金、準現金

(ロ) 負債

金融機関別	年度始金額	第()四半期末	備考
手持現金	円	円	
預貯金			
農業協同組合			
郵便貯金			
銀行預金			
金銭信託預金			
計			
貸付金			
營業無盡掛金			
頼母子講掛金			
生命保険掛金			
簡易保険、郵便年金			
計			
有價証券			
協同組合出資金			
農地証券			
國債債券			
株式公社債			
其他有價証券			
計			
合 計			

金融機関別	年度始借入額	第()四半期末	備考
市 町 村			
負債整理組合			
農業協同組合			
一般資金			
農業手形			
勸業銀行			
北海道拓殖銀行			
普通銀行			
營業無盡會社			
頼母子講			
簡易保険			
生命保険會社			
個人			
特約會社及取引先			
公益質屋その他			
計			

(イ) 未 收 入 金

(ロ) 未 拂 金

品名件名	未収入金額	備考

品名件名	未拂金額	備考

(註) この表は農家の麗帳から現金、準現金、未收未拂の關係を出張所備付の調査原簿に四半期毎に轉記して其額を記入して提出するものである。